地域住民コホート研究、東温スタディにおける出生体重と将来の2型糖尿病発症の関連についての検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本DOHaD学会事務局 公開日: 2019-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 横山, 真紀, 内倉, 友香, 髙木, 香津子, 松原, 裕子, 松原, 圭一, 斉藤, 功, 杉山, 隆 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003605

DOHaD 研究（ISSN 2187-2597）
2019 年 第 8 巻 第 3 号　13 頁

優秀演題候補セッション

地域住民コホート研究、東温スタディにおける出生体重と将来の 2 型糖尿病発症の関連についての検討

横山　真紀[1]、内倉　友香[1]、髙木　香津子[1]、松原　裕子[1]、松原　圭一[1]、
斉藤　功[2]、杉山　隆[1]

1. 愛媛大学医学部産婦人科、2. 大分大学医学部公衆衛生・疫学講座

【背景・目的】
出生体重と将来の糖尿病発症の関連については、これまで欧米を中心に多くの研究がなされてきた。低出生体重児と 2 型糖尿病発症の関連を示すものが多いが、高出生体重児も 2 型糖尿病発症に関連するとの報告もあるなど、わが国発の更なるデータ発信が重要である。東温スタディは、本学がメタボリックシンドロームや糖尿病の予防に向けた科学的エビデンスの創設を目指して実施する東温市在住の地域住民を対象としたコホート研究である。今回我々は本研究参加者において、出生体重と 2 型糖尿病発症の関連について検討した。

【対象・方法】
2009 年から 2018 年の本研究参加者において出生体重を質問紙法で調査した。研究参加時に既に糖尿病治療中であった者を除き、75g 経口ブドウ糖負荷試験で糖尿病の診断を行った。30 歳から 79 歳までの男女、計 1,135 名について、出生体重 2,500 g 未満を低出生体重群、2,500-3,999 g を標準出生体重群、4,000 g 以上を高出生体重群とし、糖尿病発症との関連についてロジスティック回帰分析を行った。本研究は本学の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】
標準出生体重群を基準として、低出生体重群は糖尿病発症と有意な関連を認めた（調整済みオッズ比 3.09, 95%信頼区間: 1.44-6.64)。高出生体重群では統計学的に有意な関連は認められなかった。

【結論】
日本の一般地域住民を対象とした検討において、低出生体重児と将来の 2 型糖尿病発症の関連を示した。高出生体重児と糖尿病発症の関連等については、今後更に若年層を対象とした検討が必要である。